

♣ 幸せを育てる教育まが ♣

し しょう たい はなし
四聖諦の話

し たい ほうもん よつ しんり なに
四諦の法門(四つの真理)とは何か

解説：鈴木 修学 上
監修：鈴木 宗音 上
原画：中村 ひろし 画



青山書院

法華經を読み、実行しましう。

法華經は、仏教の開祖であるお釈迦さまが、お心の中のありのままをお説きになられました。尊いお経であります。このお経を読んであげたいと申し上げることは、

- 一、人間の世界は、苦しみや悩みでいっぱいですが、法華經を読んで心の目が開けます。この世界が極楽浄土であることがわかります。
- 二、人間は、父母から受けたこの身このままで、仏と成れるものであることがわかります。
- 三、罪障のさわりの多い者も、そのさわりをなくすることが出来るのであります。

人の生活には、生活の苦しみ、老いゆく憂い、病の苦しみ、死の悩みなどがあります。少しも安らかではありませんが、お釈迦さまの教えを聞いて、だんだんこの苦しみと悩みを減らしてゆかなければなりません。法華經の教えを心から信じ、行なえば、いかなる心の悩みもなくなって、楽しい境遇で暮らすことが出来るようになります。私たちは法華經に教えてありますように、思いやりの深い慈悲のある人となりましよう。そして人

に対しては、親切にしましう。あるいは、勞るように、慰めをしてあげるようにしましう。また、人のよい行ないをほめるようにしましう。これが楽しい家庭をつくる行ないでありますから、この行ないがもとになって、人も自分も楽しい心になれるのであります。そしてどのような苦しみ、悩みも切り開いてゆく強い心の力が出来るのであります。そうなれば、そこから本当の幸福が生まれて来まして、毎日の生活は本當に意義ある生活となり、大きな善根も積めてゆきます。また、「自分は幸福者である」という喜びが出て来ます。そして、その喜びを世間の人々にも伝えてゆくようにしましう。この行ないが菩薩の行ないであります。

法華經の教えが尊いというのは、この教えを実行しますと、自分の家も、国も、極樂のように楽しい所となり、凡夫である自分が仏になれるというのであります。この大事なことは、法華經にのみ説かれてあるのであります。

四聖諦の話

し しょう たい はなし

目次

蓮の華のとえ(悟り)	2
鹿の住む園にて(説法)	5
大食の王様(中道)	10
乱暴な村長さん	17
二人の欲ばり男	25
琴の糸にたとえて(中道)	31
わが旗の先を見よ(三宝)	37
良医経より	46
苦しみもみな我が心から	49
幸せも	65
解説	

六年の間
きびしい修行を続けられたお釈迦さまは、
ついに菩提樹のもとで
すばらしい「悟り」を開かれました。
「悟り」を開かれたお釈迦さまは、
なおしばらくの間菩提樹の下に
おすわりになっておられました。







また、
ぐっと
のびて
美しい華を
開いたもの、



また、
やっと
水面で華を
開かせたもの、



そうだ
人間も
ちようど
この蓮池の華と
同じことだ……
私が悟りを
説いてきかせれば
きこうとしない
者もあろうが
……



ありがたい
……
お釈迦さまは
悟りを
お説き
なさるのだ
……

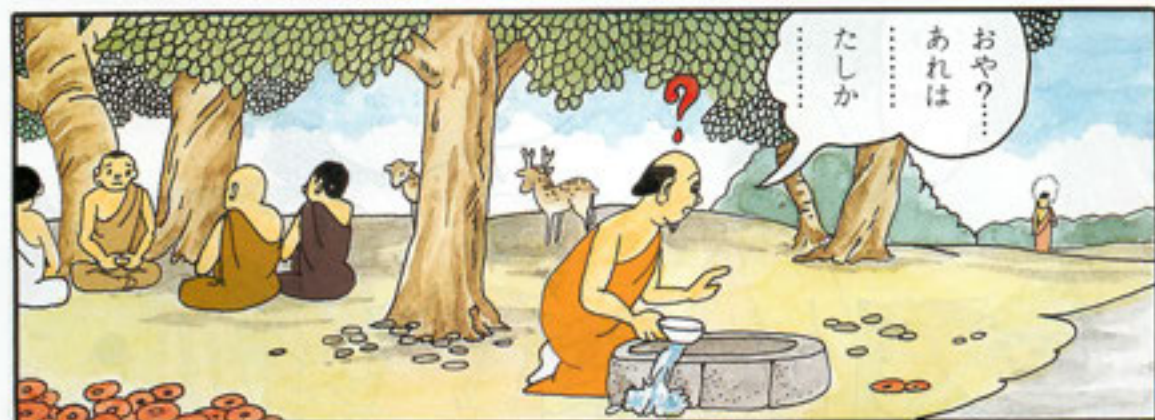


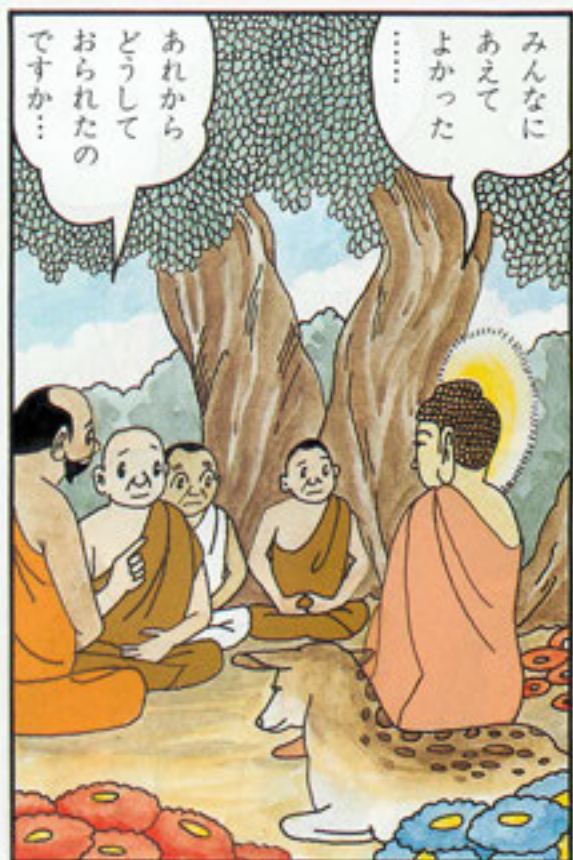
また
きっと
よくわかる者も
いるに
ちがいない……





ミガターヤ (鹿野苑)







この事例は、のちにお釈迦さまが説かれたものです。